

平成 25 年度後期 名古屋大学大学院共通科目 授業案内

Nagoya University Graduate School Common Courses
Course Information
Fall Semester, 2013



Relationships & Comm.,
Academic Writing,
Presentation, etc.



藝術リテラシー
etc.

名古屋大学教養教育院

Institute of Liberal Arts and Sciences
Nagoya University

平成25年度後期 授業科目一覧 Fall Semester Schedule 2013

授業科目 Course Title	単位数 Credit	教員 Instructor	曜限 Day・Hour	講義室 Class Room	ページ Page
体験型講義「マネジメント」	2	栗本	集中	Ace Lab S	3
体験型講義「エンプロイアビリティ」	2	河野・栗本 他	月5限	情科棟1階 第2講義室	4
Career and Life Development I	1	Go Yoshida	木5限	Ace Lab S	5
Career and Life Development II	1				
芸術リテラシー（絵画論Ⅱ）	2	小林（英）	月2限	A31	6
芸術リテラシー（音楽Ⅱ）	2	山本（裕）	火5限	国言棟4階 ビデオスタジオ	7
芸術リテラシー （レクチャーコンサートⅡ）	2	白石・高木	月5限	国言棟4階 ビデオスタジオ	8

Mei-Writing

英語 （アカデミック・ライティング）Ⅱ	English	2	Paul W. L. Lai	Tue. 3	C31	9
英語 （アカデミック・ライティング）Ⅱ		2	Chad Nilep	Thu. 4	A33	10
英語 （アカデミック・ライティング）Ⅱ		2	Kevin Teo	Thu. 2	A12	11
ドイツ語 （アカデミック・ライティング）Ⅱ	German	2	Markus Rude	Tue. 3	C36	12
フランス語 （アカデミック・ライティング）Ⅱ	French	2	Nicolas Baumert	Mon. 4	S12	13
中国語 （アカデミック・ライティング）Ⅱ	Chinese	2	Jian Lu	Mon. 4	S14	14
英語 （アカデミック・プレゼンテーション）Ⅱ	English	2	Mark Weeks	Tue. 5	S19	15

申請方法 How to Apply

① 電子メール による申請 Send e-mail

- ・受講希望クラス，学生番号，氏名，所属研究科・専攻，連絡先（電話番号，メールアドレス），受講理由を明記して10月7日（月）17時までに電子メールで申請。

Send an e-mail by 17:00, October 7th, 2013 (Mon), providing the following information: 1) course title, 2) your ID number, 3) your name 4) your department, major, 5) your contact information (phone number, e-mail address), 6) an explanation of why you want to take this course.

- ・表題: 講義科目名
Subject: Course Title

- ・E-mail address: kyo-kika@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

- ・但し，Academic Writing, Presentation (Mei-Writing) は，
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp に送付して下さい。

- ・Note: If you wish to apply for a Mei-Writing course, please send an email to
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp.

② 第1回目 授業に出席 First Lesson

- ・受講を希望する人は，第1回目の授業（後期授業：10月1日（火）～）に必ず出席してください。但し，受講調整を行うこともあります。その方法については，第1回目の授業で説明します。

If you wish to take any one of the courses, please come to the first lesson (10/1-) of the course that you wish to take. However, please note that space is limited. Students will be informed whether or not they are accepted to take the course in the first lesson. Details will be announced at the first lesson.

③ 各研究科で 履修登録 Registration

- ・受講を許可された人は，各研究科教務担当掛で履修登録をしてください。（登録の締切日は所属研究科担当掛に確認して下さい。）受講許可された人で，受講を取りやめる場合は必ず担当教員に連絡して下さい。

Students who are accepted are required to register for the course at the administration office of their respective graduate school.

Since the registration deadline varies from school to school, students are advised to check the deadline of their own graduate school.

Those who are accepted but decide not to take the course, please contact the course instructor as soon as possible.

■詳細につきましては，下記 URL でご覧ください。

For the detailed information, please go to the following website.

- 教養教育院 HP >> 大学院共通科目

[http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/gradschools/subject/\[Mei-Writing Course\]](http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/gradschools/subject/[Mei-Writing%20Course])

- 教養教育院 HP >> Mei-Writing

<http://meiwriting.ilas.nagoya-u.ac.jp/>

年度（西暦）（Year） 2013年度	開講期（Term） 集中	曜日（Day） ・－	時限（Period） ・－
科目名（Course Title）	体験型講義「マネジメント」		
担当教員（Instructor）	栗本 英和		
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.） 体験型講義1「リーダーシップ」と体験型講義2「マネジメント」をセットで受講することを勧める。			
目的と目標（Course Objective） 体験型講義は、研究分野の枠組を超えて求められる、リーダーシップ、マネジメント、チーム・ビルディング等に関する基本概念を、体験を通して会得すると同時に、事例分析や比較分析を通して、その基本知識を体系的に学修することを目的とする。 とくに、マネジメントは抽象的な概念であるために、本質的な考え方や見方が誤認されやすく、その習得も現場での勘と経験と度胸と呼ばれるような実践型訓練に依存している。 本講義では、真の勇気と知性を備えた牽引者像の具現化と現実解を創出する資質・能力の醸成を目指すため、研究分野の枠組を超えて、求められるマネジメントとは何かを主題に、類似した概念との相互比較や事例分析から、マネジメントの概念を深掘りし、組織的活動におけるマネジメントの概念とBrainstormingによる基礎知識を習得する。			
内容と計画（Course Content） 2-1 マネジメント品質に関する基本知識と基本概念を、事例から学ぶ。 ○4つの理念：価値創造，独自能力，実践コミュニティ重視，社会との調和 ○7つの観点：関係者からみた質，リーダーシップ，プロセス志向，対話による知の創造，全体最適，連携・協力関係，公正原則 2-2 プロセスのメンタル・モデルを形成する。 ○Problem Based Learning によるシミュレーションを使った因果モデルの構築 2-3 システムのロジック・モデルを形成する。 ○部分最適から全体最適のマネジメントを通した論理モデルの構築 ○二者択一を両立に変える対立ジレンマの解消クラウドの思考法 2-4 Scenario Planning による組織マネジメントを理解する。 ○MBA で行われているケースメソッドによるプレーン・ストーミング ○ボトムアップ型チームとトップダウン型チームの比較分析 2-5 Strategic Planning による戦略マネジメントを理解する。 ○Project Based Learning による経営理念と施策方針の構築 ○ビジネスモデルの企画と評価，ナレッジマネジメントの効用 2-6 本講義で得た学修成果を共有する。			
成績評価の方法と基準（Grading Basis） 課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力(60%)，講義への参画や態度(40%)			
教科書，参考書，参照情報等（Textbook, Reference book, etc.） 講義のなかで示す。			
連絡先（Contact Address） 教養教育推進室 栗本英和 kuri(at-mark)info.human.nagoya-u.ac.jp at-mark を@ にしてください。			
連絡事項（Notes） 体験型講義は、教養教育推進室が社会人からのニーズを実際に調査し、社会から真に求められる資質・能力を醸成する教育プログラムとして、担当講師、受講生、修了生が協働して開発を進めています。開講日は掲示します。想像力を醸成し、考案と協調を促進する場である「エース・ラボS」で実施するため、収容数に限りがあります。※アドバンスコースとして、体験型講義3「チーム・ビルディング」で総合力を培い、体験型講義4「エンployアビリティ」で博士後期に繋がる実践力を身につけます。			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：

phD プロフェッショナル登竜門 / グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度（西暦）（Year）	開講期（Term）	曜日（Day）	時限（Period）
2013 年度	後期	・月	・5
科目名（Course Title）	体験型講義「エンプロイアビリティ」		
担当教員（Instructor）	河野 廉, 森 典華, 船津静代, 武田 穰, 栗本英和 (協力:玉井克幸リサーチアドミニストレーター)		
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.）			
基礎段階として、体験型講義1「リーダーシップ」、体験型講義2「マネジメント」 実践段階として、体験型講義3「チーム・ビルディング」			
目的と目標（Course Objective）			
<p>体験型講義は、研究分野の枠組を超えて求められる、リーダーシップ、マネジメント、チーム・ビルディング等に関する基本概念を、体験を通して会得すると同時に、事例分析や比較分析を通して、その基本知識を体系的に学修することを目的とする。</p> <p>本講義は、体験型講義のアドバンスコースとして、自らのキャリア・ライフを考え、多彩なキャリア・パスの中から自分に適した資質・能力を形成する糸口を掴む。また、集団研修を通じた自己理解により、個々の能力・目的・環境の棚卸しを行い、大学や研究機関を含めた各界の諸先輩とのキャリアに関する面談体験と成果発表を通して、チームによるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を鍛える。</p>			
内容と計画（Course Content）			
<p>講義は『座学（グループ研修）』と『グループでのインタビュー』という形で進めます。『座学』では、自らの自己理解を皮切りに、グループ研修を通じて、個々の能力・目的・環境の棚卸しを行います。『インタビュー』では、実際に産業界、大学等の先生にキャリアに関するインタビューを行います。インタビュー内容については、各グループが発表を行うことにより、異分野のグループからチームへの変化を体験すると共に、プレゼンテーション力を養います。また、講義参加者全員で発表内容を相互理解することにより、自らのキャリアパスへの落とし込みを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア形成の必要性—オリエンテーション 『キャリアデザイン論』の進め方：自己理解から環境理解へ インタビューのための基礎的スキル チーム作り、インタビューの進め方、テーマ決定、ビジネスマナー（ロールプレイ）、取材会議など 自己理解の醸成—自己分析をきっかけに自己特性をつかむ：自己理解① Myers-Briggs Type Indicator による自己理解のための分析と自己特性 研究者になる為のスキルと準備：環境理解② ファイナンシャルプラン—ライフプランに即した資金計画：環境理解③ Work の理解と他者評価 インタビュー発表と掘り下げ1 2チームの各20分の発表とフィードバック インタビュー発表と掘り下げ2 2チームの各20分の発表とフィードバック インタビュー発表と掘り下げ3 2チームの各20分の発表とフィードバック キャリアデベロップメント：自己理解④ 自らのキャリアプランを考える 産業界・学会人との総合討論 キャリア形成に必要な姿勢や心構えを身につけます。 			
成績評価の方法と基準（Grading Basis）			
課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力(60%)、講義への参画や態度(40%)詳細は講義で示す。			
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.）			
講義のなかで示す。			
連絡事項（Notes）			
本講義は社会貢献人材育成本部・ビジネス人材育成センター、リサーチ・アドミニストレータ(URA)室、教養教育推進室との協働により、博士後期課程に注目した、実効性あるプログラムの開発を目指しています。体験型講義のアドバンスコースとして、体験型講義3「チーム・ビルディング」では総合力を、体験型講義4「エンプロイアビリティ」では後期課程で求められる実践力を培います			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：

phD プロフェッショナル登竜門 / グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 後期	曜日 (Day) ・木	時限 (Period) ・5
科目名 (Course Title)	Career and Life Development		
担当教員 (Instructor)	Go Yoshida		
目的と目標 (Course Objective)			
Desired Learning Outcomes			
1.Understanding the labor market and the professional work environment			
2.Self-awareness and self-management			
3.Deeper understanding of one's talents, strengths, and values			
4.Developing a framework of thinking in aligning one's strengths and skills with goals			
5.Ability to select suitable careers aligned with one's purpose and values			
内容と計画 (Course Content)			
○Course Description			
Deciding on one's career is probably one of the most important decisions made in our lives. Yet, it is but one component of a person's life. The purpose of this class is to explore fundamental issues regarding career and life for students to develop a framework of thinking that would help them align their passion and strengths with their career and life goals. The ultimate goal of this class is to transform students' thinking so that their actions—aligned with purpose—are of value to others and that they are useful to their organizations and communities.			
○Topics Covered			
・The Macro Labor Market ・Who Are You? ・Goals and Money ・Self-Assessment and Self-Branding			
・Self-Management and Decision Making ・Success and Life Mission ・The Work Environment			
・Is This The Right Job for Me? ・What Is The Good Life?			
○Course Format			
This graduate class is broken down into 4 modules with each module consisting of 4 classes (with the last module 3 classes):			
・Module 1: Macro Labor Market, Goals and Money, Who Are You			
・Module 2: Self-Assessment and Self Branding, Self-Management and Decision Making			
・Module 3: Success and Life Mission, Work Environment			
・Module 4: Is this the Right Job for Me, What is the Good Life			
Students must take a minimum of 2 modules with the 1 st module as the only requirement			
・2 modules: 1 credit ・All 4 modules: 2 credits			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Written Assignments 40% Classroom Participation 30% Final Project 30%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
1.Pink, Daniel, The Adventures of Johnny Bunko: The Last Career Guide You'll Ever Need (Riverhead Trade; April 2008). 2. Christensen, Clayton, Allworth, James, and Dillon, Karen, How Will You Measure Your Life? (Harper Business; May 2012).			
連絡先 (Contact Address)			
goyoshida@gmail.com / 052-747-6506 / Ext. 6506 (on-campus)			
連絡事項 (Notes)			
Office: Room 737 (7th Floor), IB Bldg., West Wing (above IB Café)			
Class time: Thursdays, 5th Period; Classroom: Ace Lab (Kyoyo Kyoiku-In Bldg.)			
Office hours: By appointment Facebook Group: “Japan Career and Life Development”			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの :

phD プロフェッショナル登竜門 / グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度（西暦）（Year） 2013年度	開講期（Term） 後期	曜日（Day） ・月	時限（Period） ・2
科目名（Course Title） 藝術リテラシー（絵画論Ⅱ）			
担当教員（Instructor） 小林 英樹			
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.） 本授業は、理論系の西洋美術史（通史）ではない。美術に関心がある方ならすべてOK。			
目的と目標（Course Objective） 絵画は造形的表現でありながら、象徴、寓意など言語的要素も有する。さらに絵画の来歴など様々な要素が付随し、造形的要素がぼかされたり不問にされたりする。本授業では、造形的要素にスポットを当て、絵画を深く感じ取る能力を養うことを主目的とする。また、色彩に対する繊細な感覚と個性を養成するため、色鉛筆（赤・青・黄）を使い、課題（例、「質の異なる三つの物質」「好きな曲」など）を色彩表現させる。最終的目的地は、豊かな感性の構築とどんな名画にも余裕を持って向き合える気持ちの獲得にある。			
内容と計画（Course Content） 難解、窮屈ではなく、楽しみながら気づいたら実力がついている。 プロジェクターを通しての画像を使用しながら古今の絵画（主に西洋絵画）と向かい合っていく。絵画にまつわる諸々の情報などを覚えてもらうタイプの授業ではなく、可能な限り純粋に造形的要素に的を絞り絵画を鑑賞し、絵画の深い理解を目指す。絵画を表層の色彩が作り出すフォルムに限定せず、キャンヴァス、膠塗り、地塗りなどにも目を向け、絵画を構造的にとらえたりもする。「絵画論2」では、バロック以降、ロココ、新古典主義、ロマン、バルビゾン、印象派、後期印象派、ムンク、フォーヴとキューヴ、シュールレアリズム、ポロック、デュシャンなどを扱う。 授業を講義、解説一色にせず、参加学生にも主体的に関わってもらう。色彩演習、色鉛筆（赤・青・黄）でどこまで色を出せるのか、その可能性に挑戦する。無限の色彩で与えられた課題をこなしていくうちにその威力に驚くだろう。美術を専門に学ぶ愛知県立芸大の油画の学生、ごく普通の学生が受講した前任校の北海学園大学の一般教養の芸術論でもその効果はいかんとなく発揮された。以前は画材としては認められていなかった色鉛筆を、近年のパソコンプリンターの淡いインキの色の混色で無限の色ができることから、見直し、採用している。携帯も簡単、手も汚れずに、自らの手で素晴らしい発見を体験できる。			
成績評価の方法と基準（Grading Basis） （1）後期一回の鑑賞に関するレポートを課題に応えるかたちで提出。 （2）色彩の実習（自分の気に入った課題二課題を提出）。 （1）（2）の総合で評価する。6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.）			
連絡先（Contact Address）			
連絡事項（Notes） 赤、青、黄、三色の色鉛筆を用意。メーカーはどこのものでもよい。あえて推薦するなら、ファーバーカステル、ステッドラーのドイツ製品がよい。100円ショップなどに置いている顔料が少なく蟻が多い廉価なものは不適切である。また、赤は朱が勝っていない濃いもの、黄は濃いものよりレモン色っぽいものの方がよい。青は、明るい水色でもなく濃紺でもない、その中位の青がよい。セルリアンブルー、または、コバルトブルーに近ければいい。後期から受講する学生は、最初の授業で説明するので、購入はその後でもよい。			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：pH プロフェッショナル登竜門

年度（西暦）（Year） 2013年度	開講期（Term） 後期	曜日（Day） ・火	時限（Period） ・5
科目名（Course Title） 藝術リテラシー（音楽Ⅱ）			
担当教員（Instructor） 山本 裕之			
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.） 基本的な楽譜の読み方（義務教育レベル）がわかること。和音（コード）など西洋音楽の骨格となる簡単な理論を理解しているとなおよい。			
目的と目標（Course Objective） 音楽を成立させるための重要な概念である「形式」あるいは「構造」を理解する。本授業では楽曲を分析および体験しながら、「構造」がいかに音楽の重要な柱となっているのかを考察する。			
内容と計画（Course Content） 授業期間の前半では、主に西洋音楽の様々な例を「形式」の観点で分析し、時代スタイルとともに変わる「音楽の形」について、実際の楽曲を録音で聴きながら理解する。後半はワークショップ形式でジョン・ゾーンの即興ゲームピース「Cobra」を取り上げ、創作的な観点から音楽の構造が生成されてゆく状況を体験する。			
成績評価の方法と基準（Grading Basis） 出席および授業への積極的な参加から総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.） 必要に応じてプリント等を配布する。			
連絡先（Contact Address）			
連絡事項（Notes） 音の抽象的な構築物である音楽では、形があってもそれを瞬時に把握することは出来ないため、美術作品に比べてフォームという概念が希薄になります。しかし創作者にとって常に大きな問題となってきたこの「構造」に向き合うことは、普段何気なく聞き流してしまいがちな音楽に対して、重要な理解を推し進めることになります。 後半のワークショップでは自らが演奏者となるので、演奏できる楽器（上手下手は問わない）あるいは音の出るもの（空き缶、小物打楽器等）を持参すること。			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：phD プロフェッショナル登竜門

年度（西暦）（Year） 2013年度	開講期（Term） 後期	曜日（Day） ・月	時限（Period） ・5
科目名（Course Title）	藝術リテラシー（レクチャーコンサートⅡ）		
担当教員（Instructor）	白石朝子、高木彩也子		
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.） 音楽的な能力・経験等は問わないが、音楽を単に聴いて楽しむだけでなく、学問的にも理解することへの意欲が求められる。			
目的と目標（Course Objective） 愛知県立芸術大学の博士課程で学ぶ現役の演奏家が講師を務める。授業では、講師による演奏を交えながら、クラシック音楽を通史的に学び、時代や作曲家による音楽作品の違いを感じ取る。			
内容と計画（Course Content） 「歌とピアノの音楽史」 講師プロフィール…白石朝子（愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程3年、ピアノ）、高木彩也子（同3年、声楽） なお、この授業は、愛知県立芸術大学と名古屋大学の大学間連携によって、井上さつき（愛知県立芸術大学音楽学部教授）と藤井たぎる（名古屋大学国際言語文化研究科教授）の監修のもとに開講されます。 第1回 ガイダンス 第2～4回 中世～バロック：グレゴリオ聖歌、ラモー、クーラン、バッハ、ヘンデル 第5～8回 古典派：モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン 第9～13回 ロマン派：シューベルト、シューマン、オペラ作曲家（ヴェルディ、ロッシニ、プッチーニなど）、ショパン、リスト 第14～15回 近代：ドビュッシー、ラヴェル 声楽及びピアノ作品の様式の変遷を、時代背景や社会文化の解説と、作品の実演を交えながら、総合的に講義する。声楽の回では、講義の内容に沿った各時代の簡単な合唱曲等を受講生により歌う時間も設ける。			
成績評価の方法と基準（Grading Basis） 出席状況、平常点及び、毎回の授業にて実施する小レポートにて、総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.） ○教科書 久保田慶一ほか『はじめての音楽史——古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 音楽之友社、2009年 ○参考書 『西洋の音楽と社会』シリーズ、全12巻、音楽之友社、1996-1997年			
連絡先（Contact Address）			
連絡事項（Notes） 総合大学の学生にとって、クラシック音楽を聞いたり演奏したりする機会はそれほど珍しくないと思いますが、生の演奏を耳にしながら音楽の歴史を学ぶ、という経験は初めてではないでしょうか。この授業では、五感を使ってクラシック音楽に触れ、それが社会の中でどのように変化してきたかを学ぶことで、皆さんが音楽文化に一層の興味をもつきっかけとなればいいと思っています。後期は、前期で学習した音楽史の流れを踏まえながら、声楽とピアノのさまざまな作品を紹介します。			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：phDプロフェッショナル登竜門

年度 (西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2013 年度	後期	・火	・ 3
科目名 (Course Title)	英語(アカデミック・ライティング) II		
担当教員 (Instructor)	頼 偉寧 Paul W. L. Lai		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
(1)Graduate students who are able to take classes, and communicate, in English. (2)Preference will be given to those who are planning to submit abstracts to international conferences or journals.			
目的と目標 (Course Objective)			
The two-semester graduate course has been developed since 2008 based on a new teaching method that integrates the training of logical thinking skills into the training of academic writing. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking skills, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper. Hopefully after completing the entire course, the students will be able to write academic papers that are publishable at a high international standard. Those who succeed in having at least one English abstract accepted for publication during the course might be employed as an Academic Writing Tutorial Specialist (teaching assistant) in the following academic year.			
内容と計画 (Course Content)			
The specific goals in the 2nd semester are to help the students (i) write a high quality abstract and introduction for their research, and (ii) strengthen the logical argument developed in the 1st semester by developing a counter-argument. The semester will cover the following lessons: Lesson 1: Reviews on thesis statement and logical argument. Lesson 2: How to write a high-quality abstract. Lesson 3: Student presentation on abstract. Lesson 4: Student presentation on abstract. Lesson 5: Student presentation on abstract. Lesson 6: How to write a high-quality introduction. Lesson 7: Student presentation on introduction. Lesson 8: Student presentation on introduction. Lesson 9: Student presentation on introduction. Lesson 10: Advanced topics on logical argument and counter argument – part 1. Lesson 11: Advanced topics on logical argument and counter argument – part 2. Lesson 12: Advanced topics on logical argument and counter argument – part 3. Lesson 13: Advanced topics on logical argument and counter argument – part 4. Lesson 14: Advanced topics on logical argument and counter argument – part 5. Lesson 15: Review, reflection, and course evaluation.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Students who need the course credits are required to meet the following conditions: (1)Attendance must be over 80% (2)Two oral presentations ((i) abstract, (ii) introduction)			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
The course instructor has developed a series of course materials, including (i) step-by-step guide on how to build a thesis statement, (ii) step-by-step guide on how to build a logical argument, (iii) template on how to write a high quality abstract, (iv) template on how to write a high quality introduction, etc. All these materials are free, and will be available for download at the course web site.			
連絡先 (Contact Address)			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
(1)Whether or not you are selected to take this course, please attend the first lesson. (2)The first lesson of the course will commence in the first week of October 2013.			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度 (西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2013 年度	後期	・木	・4
科目名 (Course Title)	英語 (アカデミック・ライティング) II		
担当教員 (Instructor)	NILEP, Chad		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
The course is open to graduate students in any field. You must be able to communicate effectively in English.			
目的と目標 (Course Objective)			
Writing practice further develops skills of paraphrase, synthesis, and critical evaluation. Students will locate, read, and evaluate a recently published book in their own field. Each student will prepare an oral critique and a written review.			
内容と計画 (Course Content)			
Weekly homework will develop writing skills such as logical argumentation, paraphrase and synthesis, and coherence in prose writing. Students will also discuss thesis writing as a project, and how to re-write thesis chapters as journal articles.			
Students will select a recently published book relevant to their thesis or graduate studies. They will read and evaluate the book, give an oral presentation on its content, and write a book review. At the end of the course, students are expected to try to publish this review in a journal in their own field.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Written review of a recently published book in the student's major field (40%), one oral presentation (20%), plus participation and attendance (40%)			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
None			
連絡先 (Contact Address)			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
Enrollment is limited to 20 students. If you are interested in taking this course, you are required to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp explaining in English why you want to take this course.			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度 (西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2013 年度	後期	・木	・2
科目名 (Course Title)	英語 (アカデミック・ライティング) II		
担当教員 (Instructor)	Teo Kia Choong		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
No Prior Pre-requisites			
目的と目標 (Course Objective)			
The primary goal of this course is to teach fundamental skills in writing abstracts to academic papers, and to develop them into coherent and well-structured essays in English, especially at the graduate level of theses and academic articles. By the end of the course, you should have hands-on experience in drafting academic abstracts and proposals, and then writing fuller-length pieces of research.			
内容と計画 (Course Content)			
(1) Academic writing for the appropriate audience. (2) The structure of abstracts. (3) The different types of abstracts and proposals (3) How to read and summarize arguments for your own writing, and incorporating them into yours (4) The style of academic writing for sciences and humanities/social sciences. (5) Essay writing practice and workshop. (6) Developing your ideas and proposals into essays (7) arguments and fallacies. (8) Writing critical analysis essays (9) Review, reflection, and course evaluation.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
(1) Attendance must be over 80% (2) One abstract in English to be discussed during the course. (3) A final paper of about 4 to 5 pages (double-spaced, Times New Roman font size 12) to be submitted as a development of the abstract, based on an academic topic of your own interest. It could also be work in progress.			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
Course materials will be circulated later in the term.			
連絡先 (Contact Address)			
You are encouraged to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp in English in the first week of October, explaining why you want to take this course.			
連絡事項 (Notes)			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 後期	曜日 (Day) ・火	時限 (Period) ・3
科目名 (Course Title)	ドイツ語(アカデミック・ライティング) II		
担当教員 (Instructor)	Markus RUDE		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) Dieser Kurs ist hauptsaechlich fuer postgraduierte Student(inn)en. 英: Graduate students who are able to take classes mainly held in German and willing to work in a team and to engage in critical discourse.			
目的と目標 (Course Objective) Ziel ist es, Sie beim Schreiben eines akademischen Textes bis zur Veröffentlichung zu unterstützen. 英: The goal of this course is the development of the skill to produce academic texts in German. Occasional short lectures and discussions, also by international graduate students, shall stimulate the academic discourse. The ultimate goal is to publish one academic paper in German language.			
内容と計画 (Course Content) Im Wintersemester (AW II) können Sie im Kurs auf Ihrem Laptop an Ihrem Paper schreiben. 英: Basic elements and structure of academic writing, abstract and thesis statement, critical reading, introduction, main body, conclusion, sources and citations. Procedure: Critical reading, collaborative writing and individual writing, reviewing and discussing academic texts. Oral presentations, questions and answers, and general scientific discussions will occasionally be included. AW I (spring) covered the basic elements of academic writing step by step. AW II (fall) is centered on an actual work of academic writing (hands-on approach) in a setting in which every participant is author, reader, reviewer and editor. Participants should always bring their laptops to the course. We recommend taking both, AW I and AW II, however, AW II can also be taken individually.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) Bei ausreichender Anwesenheit ist das Bewertungskriterium in AWII Ihr akademischer Text. 英: Minimum 70% attendance. Criteria: homework, oral reports, group writings, and individual writing (AW I). One academic written work (AW II).			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) Das in AW I obligatorische Textbuch wird zum Nachschlagen auch fuer AW II empfohlen. 英: The recommended textbook is in German: Pospiech Ulrike: Duden Ratgeber – Wie schreibt man wissenschaftliche Arbeiten? Alles Wichtige von der Planung bis zum fertigen Text. Bibliographisches Institut GmbH (2012) ISBN: 3411747110. Supplementary materials are free.			
連絡先 (Contact Address) meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes) Falls Sie Interesse an diesem Kurs haben, schreiben Sie bitte eine kurze E-Mail. 英: If you are interested, please send an email to me introducing yourself and your motivation to take this course briefly, written in German, or in German and English.			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 後期	曜日 (Day) ・月	時限 (Period) ・4
科目名 (Course Title)	フランス語 (アカデミック・ライティング) II		
担当教員 (Instructor)	BAUMERT Nicolas		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) S'assurer de la validité d'une inscription universitaire et avoir un projet de recherche sur lequel travailler.			
目的と目標 (Course Objective) Le but de ce cours est d'aider les étudiants à développer les bases de l'écriture académique en français. L'approche est multidisciplinaire. Il s'agit d'apprendre à rédiger un texte clair et convaincant visant à la publication d'une première contribution scientifique. A la fin du cours, les étudiants seront capables d'écrire en français au moins un résumé ou un projet de recherche.			
内容と計画 (Course Content) Le cours propose des exposés méthodologiques, des exercices et des ateliers d'écriture. Il s'organise en 3 parties. (1) Introduction aux règles de la rédaction en français et à ses principales difficultés (formulation d'une thèse ou d'une problématique, plans,...). (2) Analyse critique de textes scientifiques (articles, comptes-rendus d'ouvrages, ...) (3) Travail de rédaction de la part des étudiants à partir de leurs propres recherches. Le choix du travail final de rédaction peut être choisi en fonction des besoins de chacun (par exemple : candidatures à des bourses, résumé en français d'un mémoire de maîtrise ou d'une thèse, résumé en français d'un article en japonais).			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) Présence et participation 40% Travail de rédaction 60%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 教科書 Le matériel de cours sera distribué sous forme de photocopies. 参考書 Un dictionnaire est recommandé.			
連絡先 (Contact Address) meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes) Pour s'inscrire, envoyer un email à meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp (se référer aux instructions générales des cours d'Academic Writing pour les dates de début des cours et les salles). Il n'est pas nécessaire d'avoir suivi le cours "フランス語 Academic Writing I" pour s'inscrire. Le statut d'auditeur libre est également possible.			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度 (西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2013 年度	後期	・月	・4
科目名 (Course Title)	中国語(アカデミック・ライティング)Ⅱ		
担当教員 (Instructor)	盧 建		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
不分国籍，凡正在准备学位论文、期刊论文和准备参加学会的学生均可。最好具有一定的用汉语发表见解以及参加讨论的能力。			
目的と目標 (Course Objective)			
这门课的主要目标是培养学生中文学术论文的写作能力。我们将从学生的实际出发，通过课程的系统训练，逐步引导学生建立汉语思维，并掌握汉语的语言习惯以及论文的写作技巧，以致达到能用中文发表论文的水平。课程计划分为前、后两个阶段，第一阶段是准备阶段，以培养学生的“汉语感觉”为目的，重点语言习惯的培养和思维能力的训练；第二阶段是实践阶段，以写作技巧为主线进行具体的指导与实践，争取在课程结束时，帮助学生完成一篇“名副其实”的中文小论文。			
内容と計画 (Course Content)			
前期阶段：目的是为写论文作思维与语言上的准备。主要内容包括：(1) 学术论文的基础知识储备（如：介绍各专业学术论文的特征、论文的写作流程、文章构成、论题选择等等）；(2) 通过阅读优秀论文，介绍汉语学术论文的整体特征、格式、规范和要求；(3) 介绍汉语的思维与语言习惯，从中、日、英对比的角度出发，分析作为一篇学术论文，中文篇章表现上的“约定俗成”以及语法规则和惯用表现的理据；(4) 翻译练习，比较直接用汉语写成的论文和以翻译为中介手段而完成的中文论文二者之间的区别；(5) 同源译文的分析对比；(6) 通过母语进行逻辑思辨能力的训练；(7) 如何撰写研究计划			
后期阶段：目的是以写作实践为主，一步步引导学生完成一篇小论文的写作。主要内容包括：(1) 如何制定一个清晰、明确的中文标题；(2) 如何简明扼要地概括论文中心论点；(3) 如何建立论文的论证结构，并冠以明确的中文表述；(4) 如何撰写论文提要 (abstract) (5) 如何撰写“前言”和“结语”；(6) 行文技巧（比如参考文献的文体、论据的筛选、“引用”的表述、汉语语料库以及资料的收集方法、网页等等）；(7) 学会发表技巧			
※以上内容计划以学年为单位完成，分为前期课程和后期课程，不过具体实施上将根据学生的选修情况做时间及内容上的调整，以期使每位学生能学以致用。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
(1) 出席次数在总课次的 2/3 以上； (2) 课堂表现			
教科書，参考書，参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
随堂布置			
連絡先 (Contact Address)			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
这是一个学习的课堂，也是大家练习学会发表以及交流的场所。课上学生们从自己的研究出发，互相启发，互相帮助，创设了一个很好的研究氛围。汉语非母语的学生，除了论文写作训练以外，还可以提高汉语的语言表达能力；中国留学生可以训练逻辑思辨能力以及提高论文的写作技巧。每周除了正常授课外，还有一节个别辅导时间，有需要的学生可以利用这个时间商谈论文或练习学会发表。有时候也会开研究发表会，供大家学术交流。总之，它就像一个“汉语之家”，欢迎更多的同学加入到我们的行列中。			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：グリーン自然科学国際教育研究プログラム

年度 (西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2013 年度	後期	・火	・5
科目名 (Course Title)	英語 (アカデミック・プレゼンテーション) II		
担当教員 (Instructor)	Mark Weeks		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
Graduate students who are able to take classes and communicate functionally in English are eligible. Participation in Presentation I is NOT required in order to enter this course.			
目的と目標 (Course Objective)			
This course is directed towards graduate students and researchers in all fields and has the following practical goals: 1. to raise your logical drafting and practical delivery skills to a level, where your presentations (or poster sessions) can be highly effective, low stress, even enjoyable. 2. to produce logically persuasive presentation abstracts, scripts and slides related to your research area that you can use as models for future “real world” presentations.			
内容と計画 (Course Content)			
Classes are conducted in English in an informal atmosphere. The emphasis is on student presentation practice and constructive feedback. Some drafting of abstracts and scripts may be done during class time for close consultation and feedback.			
While emphasizing practice, classes are devoted to the following.			
Introduction: reviewing fundamentals of academic presentations			
Arguments and counterarguments in presentations			
Writing successful abstracts/proposals			
Presenting data effectively			
Effective language use			
Mid-term presentations			
Poster session techniques			
Advanced visual design for clarity and impact			
Presenting data effectively			
Advanced strategies for Q and A sessions			
Final presentations			
* 5-10 minutes is spent in each class practicing the common “small talk” of conferences.			
Students will be asked to deliver two presentations using slide software or other presentation aids in order to develop skills in presenting and handling question time. Detailed feedback will be given for further improvement. Students may use their own research area as a topic of presentations if they desire.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Participation 70% Two presentations 30%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
All materials are prepared and provided by the instructor. Electronic copies of key material will be sent to students throughout the course. A dictionary for using English will be useful			
連絡先 (Contact Address)			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
Academic presentations are an important, useful, even enjoyable opportunity to disseminate ideas, test theories and establish contact with other researchers. With that in mind, this course seeks to develop rigorous presentation structure, effective performance, and a greater awareness of the interactive nature of presentations.			

※リーディング大学院のコースワークに入っているもの：グリーン自然科学国際教育研究プログラム

大学院共通科目とは

教養教育院では、平成 23 年度より「国際社会に通用する語学力を養成し、社会変化に対応し得る高度で知的な能力及び素養を備える人材の育成を図る」ことを目的として大学院共通科目を開講しており、平成 25 年度後期においても、本冊子のとおり開講いたします。

大学院共通科目は、「博士課程教育リーディングプログラム」*に対応した特色のある講義内容となっており、多くの大学院生に受講していただきたいと考えております。

なお、修得した単位がどのように扱われるかは、各研究科の教務担当掛で確認してください。

*「博士課程教育リーディングプログラム」

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的としています。

名古屋大学教養教育院 教養教育推進室
TEL:052-789-4723 FAX:052-789-3527